

## 第33回 林忠彦賞

# ALT オルト

鶴巻 育子(つるまき いくこ)



人は影になる。どちらを向いているかわからない。  
People are shadows. I don't know which way they are facing.

見ることへの疑問が湧く——。「見えない、見えづらい世界」を覗いてみたい。

思い浮かんだのは、写真家とは対極にある視覚障害者の世界だった。そこは未知の領域。まずは外出をサポートする同行援護従事者の資格を取るところからスタートした。

第33回林忠彦賞は視覚障害者を通して見ることに独自の方法論で問い直した鶴巻育子さんの写真集・写真展『ALT』に輝いた。

1972年東京生まれ。1997年英語を学ぶため渡英。帰国後の1998年友人の勧めで写真と出会った。会社に勤めながら写真教室に通う。その後はフライダルや商業写真を軸にカメラ雑誌の執筆や写真講師など活動の幅を広げていった。2012年あたりから作家性を前面に押し出す。

2019年、東京・目黒に写真ギャラリー「Jam Photo Gallery」をオープンした。主宰者として自作も発表するが、写真家の企画展から若手への展示場の提供、アマチュアの育成と写真文化の担い手でもある。

活動歴を写真集で辿ると2018年『The Bus』、2020年『PERFECT DAY』、2021年『夢』、2022年『幸せのアンチテーゼ』、2022年『芝生のイルカ』そして2024年、今回の受賞作『ALT』となる。

さて、受賞作の制作だが2020年、構想を練るところから始まった。

タイトルについて鶴巻さんはこのように考えている。晴眼者はものを見ると視覚中心だが、視覚障害者は視覚に代わる他の感覚でものを見ている。この代わりのもの、他の可能性という意味をalternate

の略である『ALT』に込めたという。難題はこれをどう表現するかだった。

鶴巻さんは、3つのテキストと自らの写真により解き明かそうとしている。

セクション1 「隣にいる人」は、視覚障害者31人の方にそれぞれの好きな場所を選んでもらい現地で撮影したポートレート。

セクション2 「※写真はイメージです」は、視覚障害者の一括りにできない見え方を彼らの言葉から正解ではないことを前提に再現したイメージ画像。

セクション3 「見ることは何か」は、視覚障害者と鶴巻さんが実際に街歩きをしながらスナップしたもので、彼らが視覚以外の感覚でどう捉えているかを映像化。晴眼者の鶴巻さんの写真と比較した写真群。

通観して思うのは、これほど見ることにこだわった写真家がいなかったということ。なかでも、まるで視覚障害者が見ているかのような既視感漂う映像の再現には思わず引き込まれてしまった。「目で見るものが全てではない。感じることは見ることに」。鶴巻さんが今回のチャレンジで行きついた解釈である。見ることは何かを改めて考えさせてくれる佳作だと思う。

そして全編を通して描かれている生きる人間の姿。どことはなしに爽快感が伝わってくる。そこには誰ひとり取り残さないと共生の精神も見えて取れるからだろう。

誰もが気づかなかった視覚障害者の視覚に着目した鶴巻さん。作家としての眼力も相当なものである。

(周南市美術博物館館長 有田順)



## 第33回林忠彦賞 決定

## 「ALT」(オルト) 鶴巻 育子(つるまき いくこ)



色がなくなった。今は緑色。

There are no colors anymore. Just green.



モザイク模様。  
Mosaic pattern.



鶴巻 育子

## プロフィール

1972年東京生まれ。1997年の1年間渡英し語学を学ぶ。帰国後、写真を学び始める。カメラ雑誌の執筆や写真講師など幅広く活動する一方、2019年に東京・目黒に写真ギャラリー「Jam Photo Gallery」を開設。国内外のストリートスナップで作品を発表しながら、視覚障害者の人々を取材し「みること」をテーマとした作品にも取り組んでいる。



「ALT」は、「見る」とはどういうことかをテーマにした作品です。

本作は3部構成で、セクション1では、視覚障害者のポートレートを撮影しています。セクション2では、視覚障害者から見え方を聞き取って、正解ではないことを前提に写真化しました。セクション3では、視覚障害者と一緒に街でスナップ撮影を行い、視覚以外で世界を感じ取っている人々の感覚を写真で視覚化し、見えている鶴巻さんの写真と対比させています。

目で見るのが全てではないということ、「見る」ということを改めて考えさせられる作品です。

ALTとは alternateの略。代わりのもの、代替え、交互の、他の可能性、他の手段。X(旧Twitter)では「+ALT」ボタンは代替えテキストの略称で、画像の説明を示す用語として使われている。

## まどさんについてのおはなし会 報告

周南市出身の詩人まど・みちおさんの命日(2月28日)にちなんで、例年、まどさんにゆかりの方をお招きして「まどさんについてのおはなし会」を開催しています。

今年は、神沢利子さん(詩人、児童文学者)のご長女、山田ルイさんをお招きして、3月1日に開催しました。神沢さんはまどさんとも親交が深く、山田さんは神沢さんの助手役、事務方を務めてこられました。

まどさんと神沢さんとの長年の交流について、まどさんからのお手紙なども紹介しながらお話いただきました。

参加された方からも、「知らなかったまどさんの一面を知ることができました」「ますますまどさんのことが好きになりました」「詩集をまた読み直したいです」といった感想が寄せられ、まどさんの新たな魅力を知る機会となりました。



## 受賞記念写真展 会場/周南市美術博物館

4月26日(土)→5月11日(日)

※4月28日(月)、5月7日(水)休館

観覧  
無料

## 授賞式

4月26日(土)14:00~16:00

会場/遠石会館 千歳の間(山口県周南市遠石2丁目3-1)

- ・第一部 授賞式
- ・第二部 講演会 「世界のストリートを撮り続けて」  
中藤毅彦氏(第24回林忠彦賞)

どなたでも  
ご参加  
いただけます

## 鶴巻育子氏トークショー 作品についてお話を伺います。

4月27日(日)10:30~

話し手/鶴巻育子氏

聞き手/有田順一(周南市美術博物館館長 林忠彦賞選考委員)

会場/周南市美術博物館 講座室 定員/40名(先着順)

参加  
無料

授賞式・トークショーに

参加ご希望の方は電話でお申し込みください。

周南市美術博物館(0834-22-8880)

林忠彦賞  
ホームページ▶



LAWSON

2025.5.11 sun  
Mother's Day  
母の日  
ギフト

カーネーション  
さくらもなかプラス  
花彩つむぎ フルーツ  
4,980円(税込)※送料込み

食べられるお花の  
カップケーキ  
4個セット  
4,590円(税込)※送料込み

4/27(日)まで承り中

LAWSON  
ローソン徳山動物園前店 0834  
32-8363

※画像はイメージです。

## 美博クイズ~!〈135〉 もんだい

第33回林忠彦賞は、「ALT」(写真集・写真展)が受賞したよ。このタイトルにはどんな意味があるのだろう。

ヒント このページの作品紹介をみてみよう



周南市美術博物館  
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ( )内は20名以上の団体  
 ※18歳以下および70歳以上無料 ※林忠彦受賞記念写真展の会期中(4/26~5/11)は常設展無料  
 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日

展示室 3 コレクション展示室

コレクション展「戦後80年を迎えて」 6/15(日)まで



宮崎進「歌う俘虜」1960(昭和35)年頃 ブロンズ

広島と長崎に原爆が投下され、戦争が終わって80年が経ちました。それは「戦争は二度と起こしてはならない」という思いに包まれた歳月でした。しかし現在、ウクライナ侵攻やガザ侵攻など、世界では分断や対立が広がっています。

本展は、シベリア抑留での耐え難い体験を生きる希望へと昇華させた画家・宮崎進※の作品を中心に展示します。いまいちど立ち止まって、戦争のない世界を考えるきっかけになればと思います。



宮崎進「檻」1988(昭和63)年 ミクストメディア

※大正11年、徳山市御弓町(現・周南市)生まれ。昭和17年に応召、4年にわたるシベリア抑留を経験。帰国後、画家として活動を始める。

展示室 4 林忠彦記念室

戦時下の日本 6/15(日)まで

戦後80年にちなみ、「戦時下の日本」シリーズを展示しています。

「華北弘報写真協会」を結成した林は、約半年ごとに東京と北京を往復していました。日本では各地で戦時中の状況を撮影し、写真は雑誌に掲載されました。当時、成人の男性は徴兵されたため深刻な人手不足でした。労働力不足を補うため、独身の女性が軍需工場などに動員されました。林は、工場や鉱山などで働く女性の姿を撮影しています。



「働く女性 明延鉱山」撮影 林忠彦

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は6/29(日)まで

まどさんは、自身の本の装画も手がけています。この作品は、藤田圭雄編『まど・みちお童謡集』(彌生書房)の表紙カバーに使われています。



1977年  
クレヨン、墨、  
ボールペン、ペン、色鉛筆・紙



展覧会「まど・みちおのうちゅうーうちゅうの あんなにとおい あそこに さわる」が、4月27日(日)~6月29日(日)の会期で宇都宮美術館で開催されます。

徳山の歴史 特設コーナー

「山陽新幹線開通50周年記念 徳山駅のあゆみ」 4/30(水)まで

特設コーナーに関連して、展示室中央の展示ケースには、明治34年に発行された、観光ガイド『山陽鉄道案内』や明治36年の時刻表なども展示しています。あわせてご覧ください。

びびびの美  
2025年2月前半号



『山陽鉄道案内』

美博クイズ~! <135> こたえ

鶴巻さんによれば、「他の可能性」だそうです。  
 目が見えていると、ものを見るときにどうしても視覚中心になりますが、視覚障害者の方々は視覚にかわる他の感覚で世界をとらえています。そういうことに気づいていただきたいという思いがタイトルにこめられています。

とうしんの スカイバンク **カーライフプラン** お借換え可能!

取扱期間:2025年4月1日(火) ▶ 2026年3月31日(火)

※ご本人・同居家族の方で、カードローンまたは定期積金(掛込金額1万円以上)をご契約中の方、新規でご契約の方に限定

特別金利(保証料含む)	満額お取引条件を	特別金利より最大-0.2%で
カーライフプラン 固定金利 年利 <b>2.4%</b>	満たす方には	カーライフプラン 年利 <b>2.2%</b>
カーライフプラン プライム 固定金利 年利 <b>2.1%</b>		カーライフプラン プライム 年利 <b>1.9%</b> となります

基準金利 年4.38%から1.98%お得になります

インターネットからの  
仮審査申込みも可能です。

東山口信用金庫  
https://www.higashiyamaguchi-shinkin.co.jp/

## ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

第33回林忠彦賞受賞記念写真展  
鶴巻育子「ALT(オルト)」  
4/26(土)～5/11(日)

コレクション展「戦後80年を迎えて」  
～6/15(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

企画展 林忠彦写真展  
「世界と日本のこころ旅(世界編)」  
尾崎正章常設展「白い叙情」  
～5/25(日)

防府

毛利博物館 ☎0835-22-0001

企画展「毛利家の雛まつり」  
～4/7(月)

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

カナレットとヴェネツィアの輝き  
4/24(木)～6/22(日)

萩

山口県立萩美術館・浦上記念館 ☎0838-24-2400

特別展 池田蕉園と輝方  
一夢見る美人画  
4/19(土)～6/1(日)

コレクション展「美人画の四季」[茶陶 萩]  
[萩美百華] ～4/13(日)

萩博物館 ☎0838-25-6447

世界遺産登録10周年記念企画展  
「シン・萩の世界遺産」  
～7/6(日)

長門

香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

香月泰男のデッサン・素描展  
～5/26(月)

下関

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

企画展  
「神と仏の物語—長府寺社巡り—」  
～4/13(日)

～ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館～

## 周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

- 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 観覧料: 一般200円(160円) 学生等100円(80円)  
( )内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料
- ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日: 月曜日



企画展

5月25日(日)まで開催中

「世界と日本のこころ旅」  
林忠彦写真展  
世界編  
小展示室



林忠彦 撮影「モロッコ(ヘニフラ)」  
※国名(地名)は「林忠彦写真集 異郷好日」(1989年)をもとにしています。

周南市出身の写真家・林忠彦は旅好きとして知られ、50ヶ国以上の国々を巡り、世界各地の風景を撮影しました。みなさんも林の写真とともに、世界を旅してみませんか。

常設展 同時開催

尾崎正章常設展

「白い叙情」 大・中展示室

尾崎正章はふるさと周南を中心に、人物や港の風景、身近な品々などをモチーフに絵を描きました。昭和40年代から50年代にかけては画面全体が白く霞がかった作品が多くなり、「白い叙情」と評されるようになります。今回は尾崎ならではの白で包まれた世界をご覧ください。

「冬ざれ」1975年 油彩・キャンバス



最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。http://s-bunka.jp/kyoubi/



か聴こえない音、味わえない空気感があると思います。会場で奏でられる音楽は、そのとき限りのものです。録画や録音されたものを、公演が終わってから何度も観たり聴いたりすることは簡単です。しかし実際に会場で、全身で音楽を浴びた後に覚えるあの何ともいえない感動は、その場、その瞬間でしか味わえないでしょう。音楽も生き物です。会場でしか生まれぬ音たち、アーティストたちの息づかいをぜひ周南市文化会館で堪能してください。

(久村)

ミニコラム  
ガス燈

「コンサート会場で音楽を聴く醍醐味は？」と聞かれたら、皆さんならどう答えますか。人それぞれ様々な答えがあると思います。私なら、その場でしか味わえない空気を感ぜられることが醍醐味だと答えます。忙しい現代社会のなか、「手軽さ」を売りにしている製品やサービスが多くありますが、音楽もその内の一つだと思います。代表的な例が、スマホ一つで聴ける音楽配信アプリです。いつでもどこでも自分の好きなときに世界各国のあらゆるジャンルの音楽を手軽に楽しむことができます。その魅力の一つで、私もその手軽さに慣れてしまった現代人の一人です。たしかにアプリは便利ですが、やはりスマホで聴くだけではどこか物足りないなと感じることもあります。最近では機器の性能も上がり、スマホでも十分良い音質で楽しめますが、やはり実際に会場に足を運ぶことでしか聴こえない音、味わえない空気感があると思います。会場で奏でられる音楽は、そのとき限りのものです。録画や録音されたものを、公演が終わってから何度も観たり聴いたりすることは簡単です。しかし実際に会場で、全身で音楽を浴びた後に覚えるあの何ともいえない感動は、その場、その瞬間でしか味わえないでしょう。音楽も生き物です。会場でしか生まれぬ音たち、アーティストたちの息づかいをぜひ周南市文化会館で堪能してください。